

特集 「高次脳機能障害について」

* 高次脳機能障害とは

高次脳機能障害とは脳の病気や、交通事故等の外傷により、脳が損傷を受けた後に起こる障害です。厚生労働省の診断基準では、「記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害」の四障害を指しますが、脳の損傷部位によって様々な症状が出現します。(図2、表3を参照)

日常生活や社会生活を送る上で困難を生じやすい一方で、外見からは障害が分りにくく、当事者に自覚がないことも多いため、「見えない障害」とも言われています。そのため、障害があると認識されないまま家族が抱え込んでしまうことが多く、適切な理解と支援が必要です。

高次脳機能障害者は全国では約50万人、さいたま市では約5000人と推計され、男女比では2:1程度の割合で男性が多いと言われています。救急医療の進歩により一命はとりとめたものの、高次脳機能障害になる方は、今後も増え続けると予想されています。

表1 高次脳機能障害の原因

<脳の病気>

- 脳血管障害 (脳梗塞・脳出血・くも膜下出血等)
- 脳腫瘍、脳炎・脳症など (インフルエンザ脳症等)

<脳外傷> 交通事故、スポーツ事故、墜落・転倒等

<その他> 心筋梗塞や溺水による低酸素脳症等



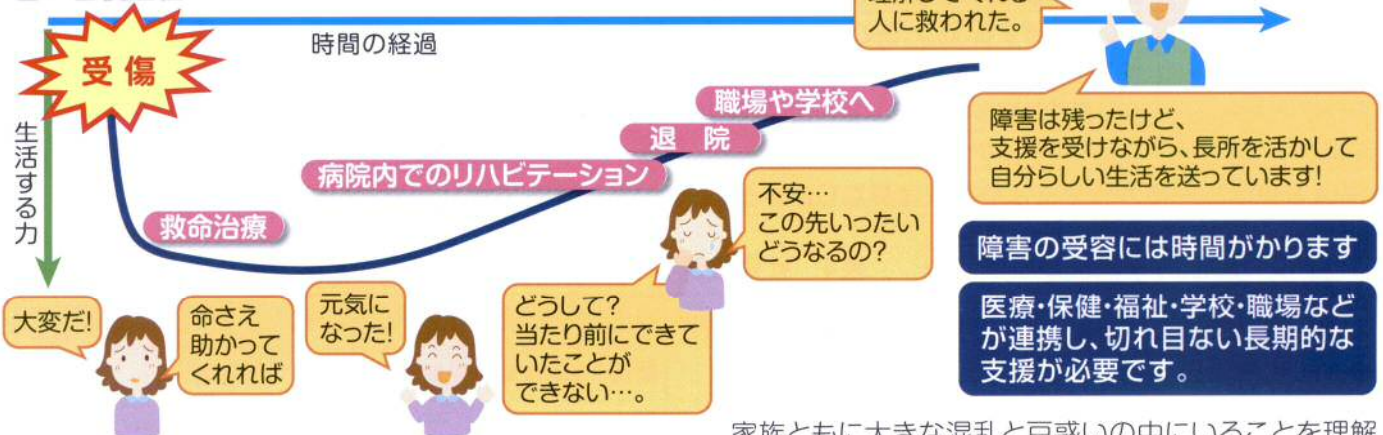
誰もが
なりうる
障害です!

ある日のAさん

Aさんは交通事故にあったが、幸い身体障害は残らなかった。ある日、友人との約束を忘れ(記憶障害)、慌てて外出の準備を始めたものの、段取りが悪く(遂行機能障害)バスに乗り遅れてしまった。またバス待ちの間に、列に割り込みしてきた相手に腹を立て、大声で怒鳴ってしまった(社会的行動障害)。バスを降りたところで道に迷い(地誌的障害)探し回っていると、友人の姿が目に入り、赤信号を見落として渡ろうとし(注意障害)、車にクラクションを鳴らされてしまった。



図1 回復過程



* 治療とリハビリテーション

まず原因となった病気(脳梗塞・脳外傷等)に対して治療が行われます。その後、障害の程度や時期に応じて作業療法士や言語聴覚士等によるリハビリテーションが行われます。

高次脳機能障害のために「怒りっぱい」等の症状がみられたり、二次障害として抑うつ状態にある場合は補助的に薬物治療が行われることがあります。

* 周囲の方に大切にしてほしいこと

思いがけない病気や事故による障害のため、当事者、

家族ともに大きな混乱と戸惑いの中にいることを理解するように努めます。高次脳機能障害では、どこまでが元来の性格や能力で、どこからが障害なのかを厳密に区別することは難しいため、**できているところを評価できないところは障害として受け止め支援をします。**また、当事者だけではなく、家族自身の生活や健康も大切にします。

表2 支援のポイント

- 今までの生活や人生観、プライドを尊重する。
- 時間をかけて緩やかに回復に向かうことを理解する。
- 障害の特徴や程度は、一人一人違うことを理解する。
- 当事者が主体的な行動ができるよう、周囲の環境を整える。
- 当事者が自己決定できるような支援を行う。
- 家族や支援者も、必要な援助を受けながら取り組む。